



## 〈 解 説 〉

### タラヨウ

(モチノキ科、モチノキ属の種、学名：*Ilex latifolia* Thunb、漢字名：多羅葉、別名：紋付柴)

この種は高さ12m、直径40cm（時に20m、1m）ほどになる常緑高木で、本州中部（静岡県）以南から四国、九州に分布します。葉は大型で長さ20cmにもなり、厚く、著しい鋸歯があります。この写真は農学部の中庭で撮ったものですが、このように実は葉の付け根に集まって着き、冬に赤く色づきます。この種も他のモチノキの仲間と同様に葉にタバコの火を当てると黒い環が現れます。また、葉を傷つけると傷跡が黒くなり、文字を書くと浮かび上がります。その昔、この葉に恋文をしたためて想う人に渡したというロマンチックな話も聞きます。和名のタラヨウは多羅葉で、それはインドで教典をヤシ科の植物「多羅葉」に書き記したことにちなむと言われます。紋付柴（モンツキシバ）も葉の性質によるものです。用材としての利用はありませんが、樹皮の部分から上質な「とりもち」が採れます。また、葉を煎って茶の代用にもすることもあるそうです。

(農学部教授 福 嶋 司)